

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第210号

令和4年(2022)2月発行

発行・事務局

◎荏原第一地域センター◎

小山3-14-1 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

花めぐり

葉ボタン

ヨーロッパの野菜“ケール”が鑑賞用に改良されたものです。かつて、冬の花の全く無い時期に、葉の広がりがあるでボタン(牡丹)の花のように見えたことからこの名がついたと言われています。

分類学上はキャベツの仲間、葉が幾重にも重なって付きます。寒くなるにつれ緑の葉は紫や黄、白に変色して、冬の花壇をあでやかに彩ります。

おめでたい花材のひとつとして正月花によく使われます。生け花としても水揚げが良く、同じく正月花としてよく用いられます。

松や千両とも合わせると豪華な水遣いになります。中心に黄色の花が咲きます。



(荏原二丁目 伊藤 茂実)

少し話は遡りますが、令和2年8月によくやう稽古再開の目途が立ち平塚剣友会を再開いたしました。空白期間が4か月半もありましたが、一人も欠けずに皆が参加してくれました。丁度良い袴のサイズだと思っていた子の丈が短くなっていたり、長いかなと思っていた子の丈が丁度良い長さになっていたり、子供達の成長を実感しました。そしてなにより、元気に会えたことで嬉しさと安堵の気持ちになりました。

令和2年8月、平塚剣友会は、小学生だけでも20名になるうとしていました。前かいた子も新しい子も10月まで基本に徹して、年が明けた令和3年に防具を着ける約束を再度取り交わしました。

況を踏まえ、子供たちを守る意味においても12月中旬から再び稽古休止の選択をし

段があり、一段目二段目と上ると(階段の左側には上りのエスカレーターが設置されています。二十九段目には広場が目の前に現れます。その広場の右奥に大きな透明ガラスの自動ドアがあります。自動ドアが開き、一歩二歩と歩くと左側には綺麗な区民集会所があります。右側には主に行政関係の手続きをする荏原第一地域センターがあり、丁寧な対応で受け付けをしてくれる職員が待っています。

また、高齢者の身近な福祉の相談窓口、移転してから、荏原第一地域センターでは、マイナンバーカードの交付もしているそうです。

「支え愛・ほつとステーション」もセンター内にあります。この新しい地域センターにお気軽にお出かけしてみたいか、うかがいでしょか。(広報委員座長・高橋 元嘉)

その日は、リサイクル収集日でした。私は、自宅のリサイクル品をいくつか、近くの収集所へ持っていき、車道と歩道の段差があることに気づかず、つまずきよろけてしまい、そこに捨ててあったリサイクルの袋の上に尻もちをついて倒れこんでしまいました。慌てて手足を動かしてなんとか起き上がり、と試みましたが、せいか、このところ足の筋力がすっかり弱っています。しゃがんでしまうとう自力で立ち上がれないのです。

丁度その時、近くの成和産業の従業員の方がリサイクル品を運んでくれました。ひっくり返って手足をバタバタさせている私を見て「大丈夫ですか!」と言いながら、私の手を持って引っぱり上げて下さいました。あの時は、大変助かりました。人



昨年7月に移転し、新しくなった荏原第一地域センターをご案内致します。武蔵小山駅のアーケード側の出口(東口)を出て左折し、不動前方向に向かうと、右側に41階建ての高層マンションが二棟並んでいます。その奥の方にマンションの中央あたりに階段の中央あたりに階段の上には尻もちをついて倒れこんでしまいました。

「ちょっといい話 ありがとう!従業員さん」

高齢者クラブ紹介

竹の子クラブ (小山一丁目町会)

平成23年春、荏原第一地域センター管内の小山1丁目に高齢者クラブを立ち上げたいと依頼があり、小山1丁目竹の子クラブを発足し、80名以上の会員が集まりました。

隔月1回、1月新年会・3月ひなまつり・5月子供の日・7月七夕まつり・9月お月見・11月忘年会等を開催しています。軽食等用意し、30人ほどで懇談会、カラオケ、又歩こう会、一泊研修等行っています。また、各個人の参加したいことに参加しています。ウクレレ練習(水)、カラオケ(木・土【月2回】)、輪投げ(土)、グランドゴルフ(火【公園])、麻雀教室(火・水)など町会会館があるおかげで少人数で楽しめます。清掃・花壇手入れボランティア、グランドゴルフ大会、輪投げ大会、芸能大会等全てに参加できるように日々楽しく練習しております。ポッチャはシルバーセンター休館中は中止して、コロナウイルスが終息した際には再度楽しみたいと考えています。その折には、ぜひ竹の子クラブへの入会をお待ちしております。



(竹の子クラブ会長 齋藤 弘子)

シリーズ

品川平塚剣友会⑥ (2の2) 平剣の子供達と コロナと戦う1年間

理屈無しで面打ちをさせます。剣道が楽しい、道場に行きたい、この気持ちを持たせる事が重要です。指導者が剣道で学ぶ大切な事は「明るく、仲良く、正しく」と教わって来ました。「踏むな、摘むな、水を遣れ」とも教わりました。稽古は今まで以上にコロナウイルス感染対策に細心の注意を払い、進めます。コロナウイルス感染が落ち着いたら、一つの目標を達成する計画を立てていきます。教え子らが小学校高学年になり、剣道士の憧れである「日本武道館」で行う「全日本少年剣道錬成大会」に出場する事が目標です。全国から約二千名の豆剣士が参加します。子供達はまだまだ、戦いの間にいます。凛々しく、逞しく育つ子供達を見守って頂ければ幸いです。

(荏原3丁目・池田 晴夫)